

ミニインタビュー①

承継すべきものは、 事業そのものとは限らない

SRC 北陸支部

いとう税理士事務所

伊藤 智宜

税理士・認定事業再生士 (CTP)

本業は税理士である私が事業再生の道に入るようになりましたのは、大学院卒業後、10年間お世話になった金沢市内にある会計事務所で税理士として仕事をする中で、経営や事業承継などさまざまな問題を抱える経営者の方々にお会いしたのがきっかけです。

順調に業績を伸ばされている経営者の方々へは税理士としての本分を果たせば良いわけですが、そういう方ばかりではありません。いえ、中小企業の場合はそうでないことが多いのが実際です。経営不振に苦しむ経営者は、そのことを社員に話すわけにもいかず、自分一人で悩みを抱え込んでしまいがちです。「そんな経営者を一人でもなくしたい、少しでも役に立てれば・・・」という思いから事業再生についての勉強を始め、CTPの資格を取得、昨年勤続10年を機に独立しました。

経営者の抱える悩みには事業承継という問題もあるのですが、実は私の実家も七尾市で日用雑貨品の卸をやっており、父は私に「継がせたくはない」と言っていました。私が子供のころには、流通のあり方も大きく変わり、日用雑貨品の卸だけではなかなか立ち行かなくなり、おもちゃも扱うようになりました。ですので私の記憶の中では「おもちゃ屋の息子」という印象の方が残っています。取扱品目の変更は功を奏しましたが、今度は少子化問題。そんな時代の波を感じてか、父はそういう思いだったのでしょうか。その時「何事にもライフサイクルがあり、その局面をどう捉えるか」ということの大切さを学んだような気がします。苦しい中を切り拓いていこうというのも勇気ですし、自ら見切りをつけるというのも、同じ勇気であるよう



に思います。

幸い実家の方は、今度はおもちゃの商品構成を子供向けのものから、大人向けというかマニア向けの割りと高額な「フィギュア」へと早い時期に移行し、さらにネット販売を始めていたので、石川県という地方のさらに片田舎の七尾にありながら、うまく時代にマッチすることが出来、父がいまも現役で頑張っています。

結果的には私は別の道を歩むことになりましたが、事業の承継というのは何も「事業そのもの」を引き継ぐことだけではなく「事業の考え方や理念」を引き継ぐということも、その一つであるように感じています。その意味では、私はしっかりと「事業を承継」したのかもしれないね。

まだまだ独立したばかりの新米ですが、いまの思いを大切にこれから地域の経営者の方々の良きパートナーとなれるよう頑張っていきたいと思っています。